

7月度木曜例会 (July 7, 2016)

今日は、立命館大学大学院で Policy Science (政策科学) を研究しておられる Ms Gardyas Bidari Adninda(インドネシア)さんのお話です。ニックネームは、ニンダさん。日本政府の奨学金を得て来日され、既に日本に2年間滞在しておられます。前半は、ニンダさんの大学での研究テーマであるムラピ山噴火後の復興に関するケーススタディについて、後半は、ちょうど明けたばかりのラマダンについてお話ししてくれました。



A Case Study on Residents' Responses and Adaptations at Relocated Permanent Settlements after Merapi Volcano Eruption 2010 in Yogyakarta, Indonesia



日本と同じく、環太平洋火山帯に位置するインドネシアには83以上の活火山があるが、ムラピ山は中でも最も活発な活動を続けており、ほぼ4年おきに噴火を繰り返し、約50年に一度、大規模な噴火が起こっている。2010年10月の噴火では火砕流が3~4km先に達し、その翌月の噴火では16~17km先にまで達した。

この噴火で3,000戸以上の家が破壊され、死者346人、負傷者121人、行方不明者5人に上った。

被災者は約2年間、竹で作られた狭い仮設住宅で暮らし、その後、現在の再定住地に移った。22ヶ所の再定住地から、それぞれ特徴の異なる3ヶ所を選び、現地で調査を行った。被災者が再定住地に移って約2年になる去年8月、421世帯にアンケートを配布し、331世帯から回答を得て、各地域で住民と話し合いの場を持った。



噴火には火砕流が伴う!

調査目的

- 定住後の被災者の responses (反応) * と adaptations (適応：新しい環境にどのように適応していったか) について精査し、被災者のニーズをより良く理解する。

* responses : preference (新しい環境が好きか嫌いか) と acceptance (新しい環境を受け入れたかどうか)、satisfaction (与えられたものに満足できたかどうか) の3つの観点から検証。

- ・調査結果は、今後の災害時の対策として、政府への提言となる。

調査内容

1. 再定住地をどう思ったか？（移住直後と2年後）
2. 新しい環境に順応するために、どのような努力をし、それが如何に役立ったか？

仮説

1. 最初は、住民は不満足、拒否、嫌悪、といった反応を示すが、徐々に順応していく。
2. 住宅の改造や新施設の受け入れ、社会経済活動の調整などにより、生活水準を向上させていく

調査地域

Site 1: Pagerjurang - 一番広い再定住地。5つ以上の村が移住した。

Site 2: Karangkendal - 1つの村だけだが、村全体がこの地区に移住した。

Site 3: Gondang 3 - 1つの村の半数が移住した。39世帯のみの狭い地区。



調査結果

1. Housing<住居>

以前は、平均して500㎡以上の広い家に住んでいたが、再定住地では100㎡と狭いことから、最初は以前の家の方を好む人が多かったと思われる（site3では違った反応）。だが、acceptance、satisfaction に関しては、新しい家についても反応が良く、以前の土地と新しい土地/家の所有権全てが政府によって認められたことが一因のようである。adaptations に関しては、家の改装（壁や天井、窓等の塗り替え・仕上げ、増床、2つの家をつなげて1つの大きな家に改築等）を行い、自助努力した。

2. Facilities<モスク、集会所、ごみ処理場、保育所、工場、共同牛舎等の新施設>

施設については、最初から好んで受け入れ、満足しており、移住直後と2年後の responses に大きな変化はない。以前の施設は古く、限られたものであったが、新しい施設は綺麗で無料、最大限に利用していると思われる。従って、adaptations は特にならない。

3. Social Activities<集会、夜の見回り等の社会活動>

好き嫌いの反応は特にならないが、再定住地での社会活動を受け入れ、支持している。人々は災害後、社会活動の必要性を認識しており、以前より協力的になった。

4. Economic Activities<職業>

以前は農業、畜産業に従事していたが、噴火後、土地が使えなくなり、ホームインダストリーに従事するようになった。Site1、Site2 では以前と比べて収入が低くなる人が増えた（特に月収5,000円未満の人）が、Site3 は少し違う（例外的）。ホームインダストリーを支持はしているが、経営状態は悪く、多くの人が以前の職業の方を好んでいる。adaptations はされておらず、まだ多くの人が仕事を見つけていない。

結論

1. 再定住地に対する被災者の responses は、新しい家や設備、社会/経済活動に対して否定的であるという仮説を立てたが、実際は、以前の居住地の方を好んでいたにもかかわらず、彼らは新しい環境を受け入れ、満足し、支持している。
 - ・住居に関する responses 以外、統計的な変化は見られなかった。住居に関しては、自助努力により、より良い responses に変わった。
 - ・施設に関する政府の支援は良かった。
 - ・再定住地での社会活動に関する responses は良かった。
 - ・経済活動の responses に統計的な変化がなかった。まだ多くの人々が満足できる仕事を見つけていないということ。
2. adaptations に関しては、被災者は自助努力により自分の家を改装したり、新施設を受け入れ、利用していることが分かった。社会活動において adaptations は見られないが、協力体制は強くなった。経済活動においては、2年経った今でも仕事のない人が多いことが分かった（政府/NGO の支援が必要）。
3. Site3 は特別なケースで、他の2ヶ所と異なる。以前の村がすぐ近くにあり、壊滅しておらず、また非常に貧しい村であったからと言える。

Q&A

☆被災者が満足しているのには安心したが、まだ仕事が見つけれないとのことで、将来も心配。彼らの今後が知りたい。⇒この調査を行ったのは、彼らの将来が心配だったから。ホームインダストリー継続のための長期的な職業訓練、新事業開始のための融資プログラム等、政府に幾つかの提言をしたい。

☆農業以外の新事業はどのように？⇒被災した土地は数年間、農業には適さないもので、生計を立てるための他の事業が必要だが、まだ見つかっていない。被災地は観光地になっているので、ジープで観光案内をしたり、店を開いたりできるのではと思っている。

☆ホームインダストリーとは？⇒主に女性が携わり、テンペ（納豆のような発酵食品）チップやバナナチップ、マッシュルームチップ、その他のスイーツを生産している。

☆日本も火山が多いので、日本に長く滞在して、災害研究をシェアしてほしい。⇒日本とインドネシアが共に研究できたら良いと私も思う。

☆政府にはどうやって提言するのか？⇒将来、私が政府で働いた時にできるかもしれないし、誰かが私の論文を読んで、意見してくれるかもしれない。

Ramadan (Fasting Month)

イスラム暦は太陰暦で、1年は354日/355日。9番目の月がラマダン（断食月）であり、今年は6月であったが、去年は7月、一昨年は8月、と毎年ずれる。例えば、私は1992年4月生まれだが、その年は4月がラマダンだった。

Rabi' al-awwal (Rabi' I) ربيع الأول 3	Safar صفر 2	Muharram محرم 1
Jumada al-thani (Jumada II) جمادى الثاني 6	Jumada al-awwal (Jumada I) جمادى الأول 5	Rabi' al-thani (Rabi' II) ربيع الثاني 4
Ramadan رمضان 9	Sha'ban شعبان 8	Rajab رجب 7
Dhu al-Hijjah ذو الحجة 12	Dhu al-Qi'dah ذو القعدة 11	Shawwal شوال 10

イスラムのカレンダー

ラマダンは断食の月で、日の出から日没までは飲食を絶つ。従って、住む場所、季節によって断食時間は変わり、四季のないインドネシアでは毎年4:30am - 6:00pm 頃だが、今年では日本では2:30am - 7:15pm であり、ヨーロッパで夏の場合、夜10時頃まで断食しなければならない。

断食の意義は、まず第一に、食欲、性欲などの体の欲求を断ち、精神的により高いレベルに到達しようとするもの、第二に、飢えに苦しむ人々を理解し

ようとするものである。

断食をしなければならない人は、精神的、肉体的にふさわしい大人（生理現象から見た大人）。従って、子供や病人、高齢者、旅行者、妊婦、授乳婦などは断食を免除される。ただし、旅行者、生理中の人、できなかった日数分の断食を別の日にしなければならない。

断食中、イスラム教徒でない人から、“死んでしまうよ~!!”とよく言われるが、ダイジョブ。1年の残りの11ヶ月間、充分食べているので、消化器官の休息となる。お腹が空っぽなのは、hungryではなく、cleanと感じる。食欲が抑えられてダイエット効果もあり、体の老廃物を取り除き、高血圧を下げ、免疫力をアップするという効果も医学的に証明されている。

ラマダンはイスラム教徒にとって特別の月で、神が私達に報いてくれる月。だから私達も善い行いをし、貧しい人に施しをし、モスクに寄付をする。家々が美しく飾られ、テレビもラマダンの特別番組になるので、日本にいる私は、それらが見られず、寂しい。レストランは常に満席で長い列ができる。一日中食べなかった後に食べる夜の食事は格別で、新鮮な味わい。モスクでは貧しい人々に食事を用意し、街は多くの夜店で賑わう。新しい服を買うのも楽しみの一つ！



ラマダン明けは大きな広場・モスクで祈る

ラマダン明けの祭りは Eid Al-Fitr と呼ばれ、Eid al-Adha と並ぶイスラム最大の行事で、盛大なお祝いをする。Fitr は becoming clean and pure の意味。人々は最高の装いで、まずお祈りをし、その後友人・親戚を訪問しあう。多くのクッキー、食べ物を用意して迎える。故郷に帰る人も多い。昨日がちょうどラマダン明けで、私は京都のみやこめっせでお祈りをした。来日して、初めて家族と離れてラマダンを過ごした去年は寂しくて泣

いてしまった。だが、みやこめっせでは、世界各国から集まったイスラム教徒と出会うなど、貴重な体験もできた。